

コミュニティ開発 レタカネ 平成25年度3次隊

JOCV 平成25年度3次隊、長山悦子です。ボツワナ中央部に位置するレタカネ (Letlhakane) という村の役所に勤務し、コミュニティ開発の仕事をしています。主な仕事は、管轄域のポテティ郡内にある4つの村に、新しい仕事をつくりだすことです。わたしは現在、そのうち2つの村 (Xere 村、Mmea 村) で、クラフト製作販売を通じた所得向上支援のプロジェクトを行っています。

・活動について

所属する部局 Community development チームです。私たちが担当している4つの村 (Xere, Kedia, Mmea, Khwee) は、もともと狩猟採集を行っていた部族 (サルワ族) が政府の再定住政策によって移住してできた村落です。これらの村はリモートエリアと呼ばれ、役所のあるレタカネからは60km~160km ほど離れた場所にあります。リモートエリアでの活動内容は3つに大別できます。① RAD ホステル*への食料品、生活用品の支給 (* RAD ホステル… 村から離れた場所に家がある子ども達が、村内にある小学校に通うための寮)、②村落住民の所得向上を目的としたプロジェクトの企画実施 (ソーイング、ベーカリー、クラフト、家畜飼育など) ③地域振興イベントの企画実施 (村の伝統文化を紹介するイベント、ビューティーコンテスト) を行っています。

私は主に②に分類される「村落住民の所得向上を目的としたプロジェクト」を担当しています。派遣されてからの約1年間は、Xere 村でバックやアクセサリーの制作指導、販売促進の活動をしていました。まず配属されて1ヶ月後の頃に、Xere 村にて1週間泊まり込みでワークショップをし、村の女性3人にバックとコサージュの作り方を教えました。その後、同期の協力隊員がビーズアクセサリー制作のワークショップを開催し、配属して3ヶ月経った頃には、3人の女性たちはクラフト商品を作れるようになりました。しかし村は都市部から遠く離れており、公共交通機関もないので、村の女性たちが商品を町まで売りにいくことが難しい状況です。

そこで、次は村の女性たちがつくったクラフト商品の販売促進に力をいれていきました。商品をPRするためのリーフレットやWebサイトをつくり、首都ハボロネやボツワナ国内の観光地での営業活動をはじめました。国内のクラフトショップやロッジのおみやげ売り場で販売してもらおうと頑張っていますが、定期的に購入してもらえるパートナーをみつけるまでにはまだ遠い道のりです。また、短期的な売上を得たり商品改善のアドバイスもらうことを目的に、レタカネ周辺の小学校や病院での訪問販売もしています。2015年からは、ボツワナと日本をつなぐ活動として、日本へのアクセサリー販売をはじめました。まずは数量限定でのスタートですが、軌道にのれば帰国した後も販売のお手伝いを続けていきたいと思っています。



Xere 村のクラフトチームの女性たちと一緒に。

・現地での生活

ボツワナの暮らしは、日本にいたときに想像していたよりもずっと快適でした。住まいは、公務員用の一戸建て住宅 (平屋) です。電気、ガス、水道が通っています。私の住んでいるレタカネにはスーパーマーケットがあり生鮮食品も買うことができます。支援先の村には電気がなくて不便な面もありますが、1週間ほどの泊まり出張であればそれほど困ることはありません。普段は朝6時半に起床し、出勤の準備をして、徒歩10分ほどで職場に到着。7:30から始業です。オフィスは、日本のような広い空間に机がずらっと並んでいるタイプではなく、欧米式のオフィスで部署ごと、チームごとに部屋が分かれています。1つの部屋は8畳くらいで、大きな机1つ、デスクトップのPC1台、プリンター1台、椅子が数脚、というのが基本のパターンです。1部屋を2~3人でシェアして使っています。共有のパソコンは1台だけなので、私は日本からもってきたラップトップを使って仕事をしています。支援先の村へは車がないと行けないのですが、公用車は台数が限られているので、毎日村に行くことはできません。そのため、多くの時間はオフィスでマーケティングやプロモーションの企画をたてたり、その準備をしたりしています。

ボツワナではランチの前にティータイムをとる習慣があり、10時頃にちょっとした軽食を食べることがあります。私の一番のお気に入り「マグイーニャ」という、砂糖をかけないサターアングギーのような、まるい揚げパンです。大好きなので何時でも食べた

いのですが、朝の時間帯を過ぎると売り切れてしまいます。ランチも近くのスーパーのデリを買ってオフィスで食べることが多いです。家に帰って食べてもいいのですが、ボツワナの日中は日差しが強く、往復20分も太陽の下を歩くとかなり消耗します。オフィスから徒歩1分の便利なスーパーには毎日お世話になっていて、店員さんも顔馴染みになりました。16:30になると、業務は終了。日が暮れる前に家に帰ります。イベントの時期は残業、休日出勤もありますが、基本的には他の同僚も皆、毎日定時で帰ります。



通勤途中に出会うヤギの姿に癒されます。

配属されて1年が経ち、ボツワナでの生活や仕事のやり方も慣れてきました。2年目からはさらに活動の裾野を広げるべく、Xere村での活動の他に新しいプロジェクトを2つはじめました。1つは、村の伝統工芸品（バスケットや、木製の小物、椅子など）のマーケティングプロモーション活動。もう1つは、Mmea村でネクタイの製作販売のプロジェクトです。

村で制作されたクラフトは「Gift from Botswana」というブランドネームをつけて販売していますが、この「Gift」には2つの意味が込められています。1つは、ボツワナで1つ1つ手作りされたクラフトを、「こころのこもった贈りもの」として、ぜひ大切な誰かに（もしくは自分へのご褒美として）プレゼントしてほしい。そんな、ちょっと気持ちが温まるモノのやりとりがうまれることを願った「贈りもの」としての意味です。もうひとつは、「神様から与えられた才能 = Gift」の意味。村の女性たちは、とって手先が器用。1週間のワークショップの間に、講師の私よりも上手になってしまうほどです。もちろん、定規を使って等間隔の線を引くのが苦手だったり、文字が書けないので商品の在庫管理をするのが難しかったりと新しくチャレンジすることはたくさんあります。でも、村の女性たちと一緒に活動していると、その手先の器用さや、商品をより良くしようとする情熱、豊かなデザイン発想力など、素晴らしい才能をもっているなあと感動することがたびたびあります。その才能をボツワナの小さな村に埋もれさせずに、クラフト制作という手段を通じて形にして、ボツワナ国内に留まらず、日本、世界に向けて伝えていけますように。活動期間の2年は短く、できることには限りがありますが、夢は大きく、残りの期間も活動を頑張っていきたいと思います。



日本でもアクセサリの販売をはじめました。

<<参考 URL>>

ボツワナの村の女性たちがつくるハンドメイドクラフト「Gift from Botswana」
<http://giftbotswana-japan.jimdo.com/>